

2月11日(土)

第2会場

15:50~16:50

国際会議室

デバイス患者の基本設定を考える

【概要】

欧米のある有名な先生の講演でデバイス交換あるいは取り出し時に半数以上が初期設定のままであったというのを聞いたことがある。近年のデバイスは自動診断機能を有し、さらに設定変更も一部は自動的に行われることが可能になってきた。これらの発達は電池寿命の延長、ヒューマンエラーの減少などに有効なことは明らかである。しかしその一方で器械が行うことには限界があり、より有効な活用が必要である。ペースメーカーでは右室心尖部ペーシングの弊害、ICDでは不適切ショック作動が患者の予後を悪化させることも知られるようになり、これらをいかに減らすかは医師、技師の腕の見せ所といえる。今回のセミナーは患者の予後だけではなくQOLの改善も目指したデバイスの基本設定をもう一度考える機会を作りたいと思い企画した。ペースメーカー、ICDの基本的な設定をできるだけ具体的な症例を元にみんなで考えてみたいと思う。

〔座長〕 三橋 武司 自治医科大学循環器内科
 萩ノ沢泰司 産業医科大学循環器内科

コメンテーター

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科循環器内科 ○西井 伸洋
 国立循環器病研究センター心臓血管内科 ○岡村 英夫
 自治医科大学附属さいたま医療センター循環器科 ○須賀 幾